



## 2月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園  
神戸 YMCA ちとせ幼稚園

1年のうちで最も寒い2月です。でも園庭の梅はもう先月から一つ二つと咲きはじめ、桜もいっばいに花芽を備えていて、春の準備は着々と進んでいます。

園庭に「三角ログハウス」があります。丸太を筏状に並べた物を2つ、山小屋の屋根のように立て掛け合わせた遊具です。丸太は表面が磨いてあり、縦（地面に垂直）に並べてあるので、よく滑ります。

ログハウスと言う通り、丸太屋根の下が「秘密な感じ」の小さな部屋で、子どもたちに人気です。

でも、丸太の屋根を「てっぺんまで登れるかどうか」が、人気の根源でしょう。斜面の長さ、傾斜、滑り具合が絶妙で、登れそうで登れないところが子どもたちの挑戦意欲をくすぐります。

てっぺんの尖がったところで誇らしげに周囲を見下ろしている子、「のぼれたー！」と手を振っている子。途中で力尽きてズルズル地面まで滑り落ちた子も、「よく飽きないねえ」と感心するくらい何度も挑戦しています。

しかし今のログハウスは設置から10年ほど経っていて、塗料が塗られていない丸太の表面が「けば立って」きました。昨年辺りから、空気が乾燥するこの時期になると「トゲささった！」と職員室に来る子が増えてきました。どうも私たちがやすりを掛けて整える、という程度ではダメなようです。

ログハウスを新調しようと業者に来てもらいましたが、対応してくれた山田先生の顔が曇っています。「業者が『新製品は丸太が横向きで、途中で足を掛ける台も付いて、すごく登りやすいんです』と、得意顔で言うんです。屋根の横には手摺も付くそうです…」

「そんなログハウス、面白いやん」

「そうなんですよ」

「そんなもん、何処の誰が買う？設計した奴は●●（自主規制）とちゃうか？」

「色々要望があって、仕様を変えたそうです。登れない子が可哀想とか、安全面とか」

この仕様変更が「余計なお世話」にしか思えない山田先生と私。

年少の子たちの多くは登り切れないけれど、登れないから面白くない、ということではなくて、目の前で悠々と登るお兄ちゃんやお姉ちゃんに憧れて、何度も挑戦しています。

いくつかルールもあります。「登るのを手伝ってはいけない」

何故なら、登る力は降りる力でもあって、自分で登ることができれば、自分で安全に降りることが出来る。逆に言えば、「降りる力」が未だ備わっていないのに、手伝ってもらって登ったり、簡単に登れたりすると、怪我をするからです。

「てっぺんは5人まで」

これは、狭いてっぺんに人がたくさん居ると、端の人が落ちるかもしれないから。てっぺんにはずっと居たいけど、混んできて、下に登りたい人が待っていると、先に登っていた人から順に降りてきます。

そうやって自分たちでルールを守りながら、登り方や降り方を色々考えて、工夫して遊んでいます。簡単に登れるログハウスなんて、絶対に面白くないぞ。

業者には、山田先生が「今あるのと同じ仕様のログハウスなら購入します」と伝えたのでした。

### 年主題 『イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～』

<年主題聖句> 「愛する者たち、  
神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、  
わたしたちも互いに愛し合うべきです。」  
(ヨハネの手紙Ⅰ 4章11節)

### 2月主題 『なかまと 心あわせて』

<聖句> 「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」  
(ローマの信徒への手紙Ⅰ 2章15節)